

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071300406
法人名	医療法人 弘医会
事業所名	グループホームとりかい
所在地 (電話番号)	福岡県福岡市城南区鳥飼6丁目7-14 (電話) 092-831-6088

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 21年 12月 3日	評価確定日	平成 22年 1月 12日

【情報提供票より】(平成 21年 10月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14 人, 非常勤 人, 常勤換算 4. 2

(2) 建物概要

建物形態	併設	改築
建物構造	RC 造り	3 階建て, 1 階 ~ 2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	19,000 円
敷金	有 (80,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要(平成 21年 10月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	79 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 弘医会 鳥飼病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

庭には、ご利用者が作られた干し柿があり「そろそろ食べごろ・・・」と、ご利用者と職員が話されている。季節の移ろいととも日々の会話も豊かに広がっていき、次第にリビング全体が笑いに満たされていく。“ご自分のお部屋を出る時は、外に出ることと同じ”と言う思いを持ってご利用者は生活されており、その心のメリハリは、生活の張りにも良い影響を与えている。朝晩の着替えや洗顔、お化粧などの身だしなみを大切にされている方も多く、日々の生活の中でもエプロンを愛用し、役割を持って生活をされている方が多い。鳥飼病院の系列ホームであり、法人は地域に根ざした医療、福祉、在宅支援などを行ってきた。病院の職員寮を改築して作られたホームは、各お部屋に出窓があり、そこにはお花の植木鉢などが置かれている。改築の難しさもあり、柱がリビングの真ん中にあたり、リビングの広さに限りがあるユニットもあるが、職員は、その空間をうまく活用し、ご利用者が過ごしやすい空間作りを続けている。男性管理者を中心に職員同士の仲も良く、ご利用者からの支えも大きい。“笑顔・安らぎ・交流”のもと、日々、穏やかな生活をされているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 昨年の自己評価と外部評価の結果を踏まえて、できることから行ってきた。①ホームの理念を再度見詰め直す機会を作った。全職員が意見を出し合い、地域密着を盛り込んだ新たな理念を作成した。②権利擁護に関する職員の理解を深めるために、外部研修に職員を参加させる機会を作るとともに、内部勉強会の実施を定期的に行っていくようにした。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今年の自己評価は、職員各自で自己評価票を記入するようにした。前回までは管理者を中心に自己評価を行い、その内容をもとに職員全員で話し合いを行っていたが、今回は、一人一人の職員が、自ら1年間の取り組みを振り返る機会を作れた。理念を職員全員で作成したこと、あらためて“地域との交流”を意識して取り組めるようになっていくことを感じる機会にもなった。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 隣の小規模多機能ホームと合同で、2か月に1回、運営推進会議が行われている。グループホームのご家族、隣の小規模多機能ホームのご利用者のご家族、民生委員、地域代表の方、地域包括支援センター職員に参加して頂いているが、市役所(本庁)の方が参加して下さった時もあった。日々の行事や消防訓練の予定等を報告し、日々の生活の状況は、写真を投影しながら説明を行っている。地域包括支援センターの方からは、城南区の情報や講演会などのお知らせも頂けており、有意義な会議となっている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 管理者や職員は、ご家族の来訪時に、日々の暮らしぶりや健康状態などを報告するように努めている。その会話の中で、今不安に思われていることなどを伝えて頂くように心がけており、金銭の収支報告も行っている。月に1回“とりかいたより”を作成するとともに、遠方のご家族には管理者がお手紙を書くようにしている。ご家族から頂いたご意見は、職員同士で話し合いを行うとともに、運営推進会議の中でも報告している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 今年(21年)の4月より、理念に“地域との交流”という言葉が盛り込まれた。同建物の中には、居宅介護支援事業所や訪問介護、訪問看護事業所もあり、隣は小規模多機能ホームが隣接しており、地域の方々のための在宅生活の支援サービスが行われてきている。そのサービスを利用されていた方々がホームに入居される方も多く、在宅から入居にわたっての継続した支援が続けられている。地域の夏祭りにはご利用者も参加しているが、来賓席に椅子を準備して下さるなどの配慮を頂けている。絵画ボランティアの方もホームに来て下さっているが、今後、更に地域交流(理念)の実践を行っていく予定にしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの開設時より理念は作られていたが、昨年の外部評価時の意見もあり、今年(21年)の4月、あらためて地域密着のホームであることを見つけ直し、理念の作成を行った。職員全員で意見を出し合いながら、「笑顔・安らぎ・交流」笑顔が絶えない安らぎのある生活 人・地域との交流を大切にす」と言う理念を作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員室に理念を掲示している。今年4月に職員全員で作上げた理念でもあり、理念の理解と共有は十分にできている。毎月のカンファレンスの中でも、4月から理念に盛り込まれた“地域との交流”という言葉を意識して、話し合いが行われるようになった。もともと“笑顔・安らぎ”と言う意識は、職員全員が意識して取り組まれてきており、ご利用者への尊厳の気持ちを常に持ちながら、日々のケアが行われてきている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	鳥飼病院の系列ホームでもあり、“医療連携”に関する安心もあり、地域の方々にはホームを選ばれている方も多し。近くに小中学校があり、運動会の練習や子ども達の声が聞こえてくる環境にあり、隣の小規模多機能ホームには、近くの保育園児が遊びにきて下さるので、一緒に交流する機会も作られている。近くのスーパーなどにもご利用者は買い物に行かれているが、周囲はマンションも多く、地域の方々との日常の交流(ご近所付き合)は課題の一つとなっている。	○	今年(21年)は大雨や新型インフルエンザの影響もあり、思うように地域活動に参加できなかった。中学校のグラウンドに遊びに行き、子ども達の活動風景を見学するだけでも、ご利用者は喜ばれ元気をもらっている状況である。来年(22年)こそは、その機会を作っていきたいと考えられている。日常の散歩の機会を通して、隣近所の方々へのご挨拶なども始めていかれてはどうか。高齢化が見られている地域でもあり、隣同志の助け合いが、更に行われていくことを期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価は、管理者を中心に行ってきたが、今回の自己評価は、各職員に自己評価票を配布し、各自で振り返りを行ってもらった。全職員が自己評価票に記入後、管理者が補足を加えながらまとめる作業を行った。まとめた物は再度職員に戻され、更に各自で追加をしていき、全体の評価内容の共有を図った。前回の評価に対しても改善計画書を作成し、更なる改善に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の小規模多機能ホームと合同で、小規模多機能ホームの2階を利用して2か月に1回開催されている。職員含めて約20名近い参加者の中、1時間30分程度の話合いが行われている。前回の議事抄録の確認から始め、サービス状況(現状、インシデント、苦情、レクレーション、行事予定など)を状況に応じて報告している。より具体的な状況を報告できるように、プロジェクターを使って、写真の投影を行いながら報告しており、参加者の方からも好評である。	○	日々、ご利用者の方々は、本当に穏やかで温かい雰囲気の中で、生活をされている。職員は、日々のご利用者の方との会話の中で、たくさんの学びを頂いている。参加者の方々に、日頃の暮らしぶりをより理解して頂くために、ホームのご利用者の方々とも集える機会を作られてはどうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、ホーム内の課題がある時には(地域との交流についてなど)、ご担当の方に相談をしているが、地域行事の紹介や民生委員の方を紹介して頂くなど、相談に応じて頂いている。	○	以前は、ホーム便りを持参して窓口を訪問していたが、一時期中断している。今後は、日々の状況の報告も兼ねて、ホーム便りを持参していきたいと、管理者は考えられている。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用されている方もおられる。職員は、制度に関する研修に参加しており、新人職員にも、今後、伝達研修を行っていく予定にしている。ホームにも、制度に関するパンフレット等を備え付けており、ご家族等にも説明している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	開設時(13年)からのご利用者もおられ、ご家族の方々とはお話をしやすい関係が作られている。ご家族の来訪時に、管理者や職員が日々のご様子等をお伝えし、金銭の収支の説明も行い確認を頂いている。毎月、管理者が、日々の生活のお写真を掲載した“とりかいだより”を作成し、ご家族にお渡ししているが、遠方の方々には、管理者がお手紙を書いて報告をするのと同時に、電話での報告も行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、ご家族の来訪時に積極的に声かけをするようにしており、ホームに対するご意見などを伝えて頂けるように、お部屋でゆっくりお話ができる時間も作っている。ご家族からのご意見は、職員で検討し運営に反映させている。ご家族が不安に思っていることや悩みを話して頂きたいと考え、今年(21年)の10月には、初めての“家族会”を行った。ご家族という同じ立場の方々が集うことができ、入院時の不安や悩みの一部を共有する機会となった。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	関連施設はあるが、原則、異動はない。ご利用者との馴染みの関係が築かれている。職員の仲も良く意見交換も活発に行われており、管理者も、職員の方々の意見を大切にしている。管理者自らが、職員の相談にも応じているが、職員の相談内容によっては相談相手を選んであげるなど、ストレスの軽減に努めている。食事会等も行われているが、法人全体での旅行や親睦会等も行われており、リフレッシュの機会となっている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	運営者は、職員の採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除することではなく、ご利用者への接し方や優しさなどを大切にしている。ホーム運営の中で、職員の得意なことが活かせるような場面を作り、手芸が得意な職員には飾り物を作ってもらったり、料理が得意な方には、毎日の調理でお力を発揮してもらっている。男性職員も勤務していることから、ご利用者への良い影響も多い。身体介護の時などにも活躍されており、女性男性ともに、それぞれの役割を発揮することができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体での朝礼が毎月行われており、運営者は、「ご利用者に対して笑顔で接すること」などを職員に伝えている。「職員に求められる10カ条」をホーム内に掲示しているが、その中にも「人権尊重」や「ご利用者を否定しない」こと等が明記されている。日々のケアに関しても、管理者は、「人を大切にすること」などを職員に伝えている。	○	職員一人一人、ご利用者への尊厳の気持ちを持って接しているが、今後も更に“人権に関する研修”を続け、“ご利用者への接し方”などを、あらためて思い返す機会を作りたいと管理者は考えられている。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	カンファレンスの前に、両ユニットの職員2人で協力して勉強した内容を伝達し、共有する場を作っている。全旨の方の生活(食事摂取など)をアイマスクをして体験したり、刻み食やミキサー食の試食会を行うなど、お一人おひとりのご利用者の生活を体験しながら、ご利用者の思いに近づくための勉強会を行っている。外部研修と合わせて、法人内の勉強会にも毎月職員は参加しており、“接遇”医療や看護などの勉強を続けている。	○	職員に応じて外部研修にも参加できているが、今後は、職員一人一人の目標を作成し、更なる意欲の向上に向けた取り組みを行っていく予定にしている。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、グループホーム協議会の勉強会に参加しており、勉強会を通じて他施設の職員との交流を図ったり情報交換を行っている。協議会では、計画作成担当者や新人職員など、目的に応じた研修も行われており、それぞれに該当する職員が参加できている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでは、入居前の見学を受け入れており、ホームでの生活を見て頂くことで、不安なく入居していただけるように支援している。同系列の事業所のご利用者が入居希望されることが多く、管理者は、居宅のケアマネや訪問看護師と連携しながら情報収集を行い、入居前から自宅へ同行訪問を行うことで、ご本人との馴染みの関係作りに努めている。入居が決まった後は、ご利用者自身で持ち込む家具や小物を選んでいただき、部屋の配置などを決めていただくことで、安心してホームの生活に馴染んで頂けるよう働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、ご利用者から、豚肉の灰汁の取り方や昔からの掃除の方法、昔の生活の様子や苦労話を教えていただいております。職員は、職員が日常的に行っている支援に、毎回「ありがとう」と感謝の言葉を伝えて下さるご利用者から、常に相手を思う気持ちを学ばせて頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、ご利用者とご家族から、どのように暮らしていきたいかの希望などを伺っている。入居後も行動を共にしながら、思いを知るように努めている。お茶会での団らんや日々の活動を通して、ご本人が興味を示されるものは何か、ご本人のご希望に沿った支援ができていないかの確認を続けている。言葉での表現が難しい方には、手を握るだけでも思いが伝わってくる時もあり、表情や行動からご本人の気持ちを汲み取る努力を行っている。	○	職員は、日々の生活の中で、ご利用者との会話を大切にされている。何気ない言葉の中にも、ご本人の真意が込められている時もあり、その時その時の言葉を、更に意識して記録に残されていかれてはどうかであろうか。生活歴を知る機会を通して、ご本人が大好きだった遊びや得意なことも聞くことができ、その内容をシートに書きこみながら、1表の“生活に対する意向”や2表の計画に反映されていかれてはどうかであろうか。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント用紙は、ケアチェック表を活用している。今年の9月から、各担当職員が原案を作成するようにした。ご利用者やご家族の意向の把握に努め、医師、PTやOTの方とも連携しながら、日常生活全般の活動内容をケアチェック表に記載している。どのような介助が必要かをあらかじめ記録しながら、担当者会議の場で話し合いが行われている。ご家族の来訪時に、ご家族に希望等を伺うようにしており、“地域で暮らす”という視点も盛り込まれている方もおられる。	○	職員のケアの標準化のためにも、その時期の“ご利用者ができること、お手伝いが必要なこと、できそうなこと”などを、ケアチェック表の右下欄を活用し、もう少し細かく表現してみてもいいかであろうか。それをもとに、各活動に関するご利用者の希望も残していき、PTなどと一緒に、短期目標内容の検討も行っていくことで、より具体的な短期目標が作られていくことが期待できる。個別のリハビリプランも頂き、目標の共有が図られていくことを期待していきたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の個別記録、チェック表や申し送りを通して、職員同士の情報の共有が行われている。毎月評価を行い、ケアプラン実施記録を残しており、3か月に1回、モニタリングを行い、モニタリング表に記載している。カンファレンスの中で、全ご利用者のプラン見直しを職員全員で行っており、必要時は計画の変更を行っている。計画の変更が必要な時は、ご家族の訪問時に説明が行っており、了解を頂いている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの隣に協力医療機関があり、急変時の対応もできるようになっており、ご利用者やご家族の安心の一つとなっている。ホームの3階には、訪問看護や訪問介護の事業所もあり連携が取れており、毎月2回、訪問看護を受けている。ご利用者のご希望に応じて、ご仏壇のお供え物や趣味のお花、お化粧品を買うために、近くのスーパーへお連れしたり、お昼、近くのお寿司を食べに行くなど、個々の希望に応じた柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、ご希望を大切にしているが、急変時はホームの協力医療機関で対応頂けることもあり、協力医療機関に変更される方もおられる。ホームの所長が看護師でもあり、24時間通して連絡が取れる体制を整えている。毎月2回、訪問看護の利用もしており、日頃から健康管理を行い、早期発見、早期治療を心がけている。受診の結果は、電話やお手紙などでご家族に報告している。年に1回の健康診断時には、ご家族に同席頂き、医師と直接お話をさせて頂くようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、ホームの“看取りの指針”について説明し、ご本人やご家族の意向を確認している。協力医療機関がホームの横にあることへの安心もあり、入居を希望される方も多いことから、「最期は、病院で…」と希望される方も多い。ご希望があれば、ホームでの看取りができることも伝えている。体調の変化に伴い、入院が必要になった場合は、医師からの説明も行われており、入院中は職員もお見舞いに行き、ご本人の不安を和らげるように努めている。ホーム内でも、医療連携体制のもと、点滴や酸素療法などの医療処置が行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、ご利用者が馴染まれているとの理由から、ご利用者を下の名前でお呼びしたり、方言を使って話すことがあるが、目上の方に対する尊敬の念を持って接することができている。職員は、入職時に個人情報の取り扱いについての誓約書を交わしており、入職後も内部研修を通して周知徹底が図られている。ご利用者の近くで行う申し送りの際にはイニシャルを使用し、声のトーンを抑えるなど配慮しているが、更なる配慮の必要性があることを管理者は感じている。	○	管理者は、ご利用者の大切な情報を取り扱っていることを職員全員で再認識し、個人情報の取り扱いについて、更に理解を深めていきたいと考えておられる。内部研修や会議の場を活用されながら、職員の理解が更に深められていくことを期待していきたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームに大まかな日課はあるが、ご利用者の思いを受け入れ、それぞれのご利用者のペースで生活して頂けるように支援している。職員は、毎日、今日一日をどのように過ごすかをご利用者に決めていただいており、ご利用者はその日の気分に応じて散歩を楽しんだり、趣味の活動に取り組みまれながら過ごされている。意向を表すことが難しいご利用者には、職員から声をかけて散歩にお誘いしたり、ご利用者の何気ない表情からお気持ちを汲み取る努力を続けている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は、ホームから5分ほど歩いた場所にある同法人の老健施設で調理されており、職員とご利用者で受け取りにいっている。週に1回は、ホームの畑で収穫したサトイモなどを使用して、ご利用者の希望の献立をホームの台所で作っている。ご利用者は、調理の下ごしらえや配膳や下膳、おしぼりの準備などに取り組みながら、食事作りに参加されており、近所のお寿司屋で外食をしたり、ご利用者の馴染みのお店から出前を取ることもある。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	14時から16時を入浴時間と決めているが、ご利用者の希望や体調に応じて、入浴時間以外の時間にもシャワー浴等で対応している。ご利用者に入浴を楽しんで頂けるように、ご利用者に応じた入浴時間や湯温の調整等を行っている。また、季節に応じて菖蒲湯やゆず湯を取り入れている。入浴を好まないご利用者には、ご利用者の思いを受け入れ、時間を置いて改めてお誘いする等、気持ち良く入浴して頂けるように工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	廊下の掃除や花の水やり等、それぞれのご利用者ができることに取り組みながら、ホームの中で役割を担われている。意向を表すことが難しいご利用者の手を取って話すことを役割とされているご利用者は、「私が側にいてあげなくては」という思いを持ち、日々喜びを感じながら、ご利用者との時間を楽しませている。職員は、月1回の絵画教室を開いたり、ご家族との編み物の時間を楽しんで頂く等、それぞれのご利用者に応じた楽しみごとの支援も行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者は、毎日のようにホームの近くにある公園に出かけ、公園で遊んでいる子供たちやお母さんとの会話を楽まれている。また、希望に応じて、化粧品や居室のご位牌のお供え物などの買い物に出かける等、日常的に外出を楽しませている。福岡ドームへの野球観戦や地域の夏祭りへの参加など、季節の行事を取り入れた外出も積極的に行われている。野球観戦外出の時は、ご利用者に野球の応援ボードを作ってもらい、より外出を楽しんで頂けるように支援した。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	市の実地指導の際に、地域の防犯上、日中も玄関の施錠を行うように勧められている。指導に応じて日中もホームの玄関は施錠しているが、ご利用者が玄関に向かわれた時は、職員があらかじめ鍵をあげて、自由に出入りが行えるようにしている。職員は、日頃から立ち位置を工夫したり、職員同士で声を掛け合いながら、ご利用者の見守りを行っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、併設する小規模多機能施設と合同で夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。訓練には職員とご利用者と防災設備業者が毎回参加しており、定期的に消防署職員の立会いが行われている。災害発生時に備えて、数日分の食料や飲料水、寒さをしのぐための物があらかじめ同法人の施設に準備されており、災害時の法人内での協力体制が整えられている。	右に 続く	これまでの運営推進会議の中で、地域の消防訓練へのホームの参加の検討について議題に挙げたことがあり、ホームでは、災害時どのように地域との協力体制を取っていけるのか、検討を続けている。
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームの献立は、法人内の管理栄養士が立てており、カロリーや栄養面の管理が行われている。また、定期的に体重測定を行っており、協力医より、それぞれのご利用者に応じた指導を受けている。ご利用者の食事は記録され、水分量も大まかな摂取量が把握されている。食事が少ないご利用者には、米飯をおにぎりにしたり、お好みの食材を購入して食事に出すなど、ご利用者に負担なく摂取して頂けるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、ご利用者が活けられた季節の花が飾られ、リビングや廊下には、さりげなくクリスマスの飾りが飾られており、ホームの中でも季節感を感じていただけるよう工夫している。ユニットごとにリビングの広さや家具の配置が違い、ご利用者にくつろいでいただけるようにソファの配置など工夫しているが、管理者は、リビングがより快適な空間となるように、今後も工夫が必要と考えている。リビングはレースのカーテンでこまめに光の調節が行われており、廊下には香りのある花を飾ることで、室内のにおいへの配慮が行われている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・カーテン・照明はあらかじめホームで備え付けてあるが、入居時には馴染みの物を持ってきて頂くよう声かけをしている。ご利用者は自宅で使っておられた家具や長年愛用されている鏡台、ぬいぐるみやご家族の写真などを持ってこられており、御位牌を持って入居されたご利用者もおられる。入居後も、ご家族やご利用者と相談して、ご家族から頂いた絵手紙を壁に飾るなど、それぞれのご利用者に居心地よく過ごしていただけるように工夫を続けている。		